



記者会見資料

2017年8月3日(木)

目次

ごあいさつ	3
開催概要	4
ヨコハマトリエンナーレ2017について／逢坂恵理子 ヨコハマトリエンナーレ2017 コ・ディレクター 横浜美術館館長	5
横浜とトリエンナーレ／柏木智雄 ヨコハマトリエンナーレ2017 コ・ディレクター 横浜美術館副館長 主席学芸員	6
企画コンセプト、内容について／三木あき子 ヨコハマトリエンナーレ2017 コ・ディレクター、キュレーター ベネッセアートサイト直島インターナショナルアーティスティックディレクター	7
ヨコハマトリエンナーレ2017の特徴	8
展覧会のみどころ	9
参加アーティスト一覧	10－17
公開対話シリーズ「ヨコハマラウンド」	18
ヨコハマサイト、ヨコハマスクリーニング、ヨコハマプログラム	19
ヨコハマトリエンナーレ2017と一緒に楽しめるアートプログラム	
「セット券」で鑑賞できるプログラム	20
期間中に横浜で開催される主なアートプログラム	21
ヨコハマトリエンナーレ2017応援プログラム	22
チケット情報	23
交通アクセス・案内図	24
支援／特別協力／後援／特別協賛／協賛／助成／協力／認証	25
横浜トリエンナーレについて	26
お問い合わせ	27

ごあいさつ

この度、現代アートの国際展「ヨコハマトリエンナーレ2017 島と星座とガラパゴス」を開催する運びとなりました。横浜トリエンナーレは、2001年に第1回展を開催して以来、我が国を代表する現代アートの国際展として、時代を捉えたテーマを設定し、新しい価値観と文化を継続的に世界へ発信してきました。

第6回となる今回は、「接続」と「孤立」をテーマに、横浜美術館、横浜赤レンガ倉庫1号館、横浜市開港記念会館地下の各会場で、内外で活躍するアーティストによる作品が展示されます。

文化芸術創造都市・横浜のまちなかで展開される様々なプログラムとともに、横浜の街全体を楽しんでいただければと思います。

本トリエンナーレが、ひらかれたアートの祭典として、まちにひろがり、世界とつながることで、多様性を受け入れる心豊かな社会の形成につながることを願っております。

最後になりましたが、今回快くご参加いただいた作家や所蔵家の皆様に厚く御礼申し上げます。

また、本展開催にあたりご支援いただいた文化庁をはじめ、様々なご協力やご助言を賜りました関係者の皆様、そして数々の活動で本展を支えていただいている横浜トリエンナーレサポーターの皆様に深く感謝の意を表します。

横浜市
(公財) 横浜市芸術文化振興財団
NHK
朝日新聞社
横浜トリエンナーレ組織委員会

開催概要

展覧会タイトル： ヨコハマトリエンナーレ2017「島と星座とガラパゴス」
Yokohama Triennale 2017 “Islands, Constellations and Galapagos”

ディレクターズ： 逢坂恵理子 (OSAKA Eriko) 横浜美術館館長
三木あき子 (MIKI Akiko) キュレーター、ベネッセアートサイト直島インターナショナルアーティスティックディレクター
柏木智雄 (KASHIWAGI Tomoh) 横浜美術館副館長、主席学芸員

構想会議メンバー： スハーニャ・ラフェル (Suhanya RAFFEL) M+美術館 エグゼクティブ・ディレクター
スプツニ子! (Sputniko!) アーティスト、マサチューセッツ 工科大学メディアラボ助教
高階秀爾 (TAKASHINA Shuji) 美術史家、大原美術館館長、東京大学名誉教授
リクリット・ティラヴァーニヤ (Rirkrit TIRAVANIJA) アーティスト、コロンビア大学芸術学部教授
鷲田清一 (WASHIDA Kiyokazu) 哲学者、京都市立芸術大学学長、せんだいメディアテーク館長
養老孟司 (YORO Takeshi) 解剖学者、東京大学名誉教授

会期： 2017年8月4日（金）— 11月5日（日）開場日数：88日間
休場日：第2・4木曜日（8/10、8/24、9/14、9/28、10/12、10/26）

会場： 横浜美術館 横浜西区みなとみらい3-4-1
横浜赤レンガ倉庫1号館 横浜市中区新港1-1-1
横浜市開港記念会館 地下 神奈川県横浜市中区本町1-6
※上記の有料会場以外でも関連するアートプロジェクトを実施する予定です

開場時間： 10:00 — 18:00（最終入場17:30）
[10/27（金）、10/28（土）、10/29（日）、11/2（木）、11/3（金・祝）、11/4（土）は20:30まで開場（最終入場20:00まで）]

主催： 横浜市、（公財）横浜市芸術文化振興財団、NHK、朝日新聞社、
横浜トリエンナーレ組織委員会

ヨコハマトリエンナーレ2017企画体制：

キュレトリアル・チーム／木村絵理子*、松永真太郎*、片多祐子*、金井真悠子*、
日比野民蓉*、大下裕司、中野仁詞（公益財団法人神奈川県芸術文化財団）沼田英子*、内山淳子*、
坂本恭子*、大澤紗蓉子*
コーディネーター・チーム／庄司尚子*、田中 彩、倉茂なつ子、小林麻衣子
空間設計／藤原徹平（建築家／フジワラテッペイアーキテクツラボ代表）、
横浜国立大学大学院、建築都市スクール（Y-GSA）

★＝横浜美術館所属

お問い合わせ 【ハローダイヤル】 03-5777-8600（8:00-22:00）
【ヨコハマトリエンナーレ2017公式WEBサイト】 www.yokohamatriennale.jp

ヨコハマトリエンナーレ2017について

作品を通して世界や人間についての思いを深め、 複雑な時代を生き抜く

2001年に第1回を迎えた横浜トリエンナーレは、今年で6回目を迎えます。

初回には想像できなかったほど、この16年間でビエンナーレ、トリエンナーレと呼ばれる現代美術の国際展は、国内外の各地で頻繁に開催されるようになりました。今年はヴェネチア・ビエンナーレ、ドクメンタ、そして10年に一度のミュンスター彫刻プロジェクトが同時期に開催され、日本でも札幌、市原に加え、北アルプス、奥能登、種子島などでも新たに国際展が開かれます。

国際展の成り立ちや規模はそれぞれに異なるとはいえ、国際展がブームとなる時代にあって、私たちは2011年の第4回横浜トリエンナーレ以降、美術館が会場であること、近代化とともに歩んできた歴史的背景を持つ横浜であることを考慮しつつ、独自性をいかに構築し、国内外に発信できるかについて、腐心してきました。

そして私たちは、国際展を同時代のアーティストが作り出す新しい表現を身近に経験し、複眼的な視点を醸成し、作品を通して世界や人間についての思いを深める貴重な機会であるととらえています。

対立が頻発し、内向的な思想が広がりつつある先行きの見えない今日、現代美術に内包される創造性や想像力そして多様な視点がこの複雑な時代を生き抜く上で、夜空の星のごとく、その道筋を示すものとなることを願っています。

本トリエンナーレは、美術だけでなく哲学、数学、解剖学、社会学など様々な分野の専門家の協力を得て、対話、協議を重視した今までとは異なる方法で準備を進めてきました。

ヨコハマラウンド、ヨコハマサイト、ヨコハマプログラム、ヨコハマスクリーニングなど、展覧会に加え公開講座、街歩き、演劇、映像など多様なジャンルや人をつなげる試みを数多く組込んでいます。異なるものや、分断され孤立しているものを対話と思考と想像力とによってつなげ、新しい可能性を切り開く一助としたい。ヨコハマトリエンナーレ2017を通して、多くの方々が想像力の翼を広げ、多様な視点の豊かさを実感してくださることを期待します。



©Aterui

ヨコハマトリエンナーレ2017 コ・ディレクター
横浜美術館館長 逢坂恵理子

横浜とトリエンナーレ

「開港」の地・横浜から発信する

1867年、幕末の日本は「大政奉還」によって近代化へと大きく舵を切りました。今年は、それから150年目にあたります。この大政奉還によってサムライによる政治が終わり、明治という新時代が拓かれました。この大変革の一因は、安政期の開国とその象徴ともいえるべき「開港」にあったと言ってもよいでしょう。江戸時代においては、一寒村に過ぎなかった横浜村は、1859年に開港場の一つとなり、急速にインフラが整備されました。そして、その必然として内外の文物や人々が新たに交錯する場所、すなわちガラパゴス的な「孤立」から「接続」する場へと劇的な変貌を遂げ、日本の近代化を牽引する街の一つとして発展しました。

ヨコハマトリエンナーレ2017では、「接続性」や「孤立」など全体のテーマに関連する複数の視点を手がかりとしながら、今日的な諸問題について分野を横断して考えてみたいと思います。その一環として、一見、現代アートとは無関係と思える横浜の歴史的背景を意識的に視野に入れていきます。すなわち、横浜美術館の他にメイン会場として日本の近代化を象徴する市内の歴史的建造物、赤レンガ倉庫1号館と横浜市開港記念会館を選定していることも、そして横浜の史実や地誌などに言及する複数のアーティストを出品作家に含むことも、そうした視点に基づいています。また、本トリエンナーレのテーマに深く共鳴すると思われる会場近隣の歴史的な場所や施設などから複数を選定し紹介していることも、同じ視点に基づきます。



©Aterui

ヨコハマトリエンナーレ2017 コ・ディレクター
横浜美術館副館長 主席学芸員 柏木智雄

企画コンセプト、内容について

「接続性」と「孤立」から世界を考える

世界は今、従来の枠組みを超えて様々なネットワークが拡大する一方で、紛争や難民・移民の問題、保護主義や排外主義、ポピュリズムの台頭といった課題に直面し、大きく揺れています。また人間の処理能力を大幅に超える量の情報が氾濫し、高度に複雑化する環境の中、SNSなどのコミュニケーションツールの急速な発達により、ネット上の小さなコミュニティやグループの中だけに身を置くような世界観の島宇宙化が進んでいるようにも見受けられます。さらには、これまでの大国や中央集権の論理に抗うかのような様々な小規模共同体の動きも活発化しています。

このような従来の社会の枠組みや価値観が大きく揺らぎつつある今日、ヨコハマトリエンナーレ2017は、「島と星座とガラパゴス」というタイトルのもと、世界の「接続性」と「孤立」の状況について、アートを通じて様々な角度から考察します。そして、相反する概念や現象が複雑かつ流動的に絡み合う世界や、独自性・多様性の在り様、さらには先行きの見えない時代に、人間の持つ想像力や創造力が、未来に向けた新たなヴィジョンやグランド・デザインをどのように導き出し得るのか、思索を巡らせます。

展覧会場となる横浜美術館と横浜赤レンガ倉庫1号館、横浜市開港記念会館には、世界各地から約40組のアーティストたちの多種多様なメディアの作品が展示されます。作家数を絞り、多くの作家が複数の作品を展示することで、小さな個展の集合体のような構成となっています。

これは、鑑賞者が個々の作家の創作世界に、より深く触れられるよう意図したものであり、同時に、異なる星や島が緩やかに繋がり星座や多島海を形成するように、作品世界が連なっていくイメージも反映しています。

参加作家には、現在のアートの主流とは一線を画し、独自の手法で課題に取り組み続けていたり、領域横断的に既存の枠組みや概念を超えた活動を推し進める作家が含まれるとともに、複数アーティストの協働プロジェクトや、直面する社会問題に芸術的観点からアプローチするプロジェクトもあります。また、各作品が扱うテーマは、個人と社会、私と他者の関係、国家や境界、ユートピアについて、あるいは異なる歴史観や人類の営み・文明への問いから、極めて日本的な孤立の問題まで多岐にわたります。

本トリエンナーレでは、企画の構想にあたり、異なる分野の専門家を含む「構想会議」を通して、コンセプトをより多角的に掘下げました。また、展覧会に合わせて幅広い領域の専門家を迎えた公開対話シリーズ「ヨコハマラウンド」を実施し、視覚と対話の両面による「議論」「共有・共生」の機会となることを考えました。さらに、横浜国立大学大学院Y-GSAなど近隣の教育機関との連携や、横浜の歴史的施設にも注目し、開港、開国の歴史を背景に、複眼的かつ身近な観点からテーマに迫ることも試みます。こうして、我々が生きる今・この世界の成り立ちや立ち位置を改めて確認するとともに、いかに未来に記憶を繋げるのか、またどのように共に生き得るのかなどについて考えるひとつの契機になることを目指します。



©Aterui

ヨコハマトリエンナーレ2017 コ・ディレクター
キュレーター、ベネッセアートサイト直島インターナショナルアーティストディレクター
三木あき子

ヨコハマトリエンナーレ2017の特徴

1. 「接続」と「孤立」をテーマに、世界のいまを考える

「島」「星座」「ガラパゴス」は、接続や孤立、想像力や創造力、独自性や多様性などを表すキーワードです。いま、世界はグローバル化が急速に進む一方で、紛争や難民・移民の問題、英国のEU離脱、ポピュリズムの台頭などで大きく揺れています。

本トリエンナーレでは、「接続」と「孤立」をテーマに、こうした相反する価値観が複雑に絡み合う世界の状況について考えます。そして、人間の勇気と想像力や創造力がどのような可能性を拓くことができるのか、開国、開港の地・横浜から新たな視点を発信します。

2. 厳選された作家の個展群が星座のように連なり、作家の創作世界が体験できる 参加アーティスト 38アーティスト+1プロジェクト

アイ・ウェイウェイ、オラファー・エリアソン、マウリツィオ・カテランら国際的に活躍する著名なアーティストや日本で初めて本格的に紹介されるワエル・シャウキーほか、小沢剛、宇治野宗輝、シュシ・スライマン、ブラバヴァティ・メッパイルらが新作を、カールステン・ヘラー、トビアス・レーベルガー、アンリ・サラ、リクリット・ティラヴァーニヤの4名が共同作品を発表します。

アーティストの数を絞り、その多くが複数作品を展示することで、小さな個展群が緩やかにつながり、星座あるいは多島海を形作るように展覧会を構成します。鑑賞者がそれぞれ、個々のアーティストの創作世界に深く触れつつ、その関係性について考えるきっかけを作ります。

3. 美術以外の「他ジャンルとの接続」「対話・協議」を重視した取り組み

ー公開対話シリーズ「ヨコハマラウンド」全プログラムを発表

登壇者に、参加アーティストや構想会議メンバーを始め、吉見俊哉氏、ドミニク・チェン氏、北山恒氏、平野啓一郎氏ら様々な分野の専門家を迎え、2017年1月から11月3日(金・祝)まで全8回開催します。円卓(roundtable)を囲むように何回かにわたって(rounds)対話・議論を重ねます。

ー「構想会議」によってコンセプトを深める新しい取り組み

本トリエンナーレでは、ジャンルや世代を超えた9名の専門家から構成される「構想会議」によって、これからの時代に必要な価値や展覧会コンセプトについて議論を深め、タイトルを決定しました。国際展の構想に美術以外の多様なジャンルの専門家が本格的に参画する取り組みは、国際展の今後のかたちやさらなる可能性を探求しようとする試みです。

4. 「横浜」に注目する

本トリエンナーレでは、改めて「横浜」に焦点を当てます。横浜の歴史的背景を視野に、横浜美術館の他に日本の近代化を象徴する市内の歴史的建造物を会場として選定し、横浜の史実や地誌に言及する複数のアーティストの作品も含みます。また、ヨコハマトリエンナーレ2017の主要なテーマである「接続」と「孤立」、また「共生」、「多様性」などと結びつく事業や展示を実施してきた会場近隣の施設、あるいは歴史的背景を持つ遺構や場所を「ヨコハマサイト」と呼び紹介します。加えて、横浜国立大学大学院Y-GSAなど近隣の教育機関と連携を図るなど、横浜のリソースを再確認することを試みます。

展覧会のみどころ

横浜美術館に大規模なインスタレーション —アイ・ウェイウェイ、ジョコ・アヴィアント

アイ・ウェイウェイは、常に自らの置かれた社会状況に関わり、芸術概念を拡張するかのような活動を推し進めています。ヨコハマトリエンナーレ2017では、メイン会場のひとつとなる横浜美術館の外壁と柱に、救命ボートと難民が実際に使用した救命胴衣を用いて、難民問題に関する大型インスタレーションを発表します。

また、館内のグランドギャラリーでは、ジョコ・アヴィアントが、注連縄（しめなわ）から発想して2000本のインドネシアの竹を独自の手法で編み上げたダイナミックな新作を展示します。インドネシアの竹は、同国では古くから家屋や日用品の素材として親しまれてきました。作品を通して、自国で失われつつある伝統文化、人間と自然の共生について考えます。

横浜赤レンガ倉庫1号館で、「横浜」に関連した 新作を披露 —小沢剛、クリスチャン・ヤンコフスキー

ヨコハマトリエンナーレ2017では、日本の近代化の起点となった横浜の歴史や横浜をテーマにした作品も展示されます。横浜の歴史的遺産である横浜赤レンガ倉庫1号館では、小沢剛が、物故著名人の海外での活動に焦点を当てた「帰って来た」シリーズを新たに発表します。明治の世を駆け抜けた横浜生まれの伝説的な思想家・美術史家を蘇らせます。

また、ユーモアとパースに満ちた写真・彫刻・映像作品等で知られるクリスチャン・ヤンコフスキーは、オリンピックを目前にした日本の「気の流れ」を良くしようと、横浜の公共彫刻を揉みほぐそうと診断するマッサージ師の映像作品を制作します。

日本初、本格紹介の若手アーティスト —ザオ・ザオ、イアン・チェン

ザオ・ザオ（赵赵）、イアン・チェンは、日本で初めて本格的に紹介される近年活躍の著しい若手アーティストです。ザオ・ザオ（赵赵）の《プロジェクト・タクラマカン》は、作家の出身地であり、たびたび民族問題の舞台となるタクラマカン砂漠の真中に、冷蔵庫を運んで配線し、冷えたビールを飲むという行為を映像にした作品です。ユーモアと壮大なスケールで、かつてシルクロードで様々な物や人、文化が行き交った歴史や、現在の孤立した状況などについて思いを馳せます。

また、イアン・チェンは、管理され閉じられた世界での意識の芽生えをテーマにした映像作品《使者は完全なる領域にて分岐する》を展示します。プログラミングにより様々な状況がリアルタイムにシミュレーションされて映し出され、神の使いに見立てられた柴犬達が画面内で衝突と変容を繰り返し、予期せぬストーリーを紡ぎ出します。

ヨコハマトリエンナーレ2017「島と星座とガラパゴス」では、38組のアーティストの作品と1プロジェクトを通して、世界の「接続」と「孤立」の状況について様々な角度から考えます。

参加アーティスト一覧 (計38組 / 1プロジェクト)

作家名(和)	作家名(英)	生年	展示場所
アイ・ウェイウェイ(艾未未)	AI Weiwei	1957	横浜美術館
青山悟	AOYAMA Satoru	1973	赤レンガ／美術館
ジョコ・アヴィアント	Joko AVIANTO	1976	横浜美術館
ブルームバーグ&チャナリン	BROOMBERG & CHANARIN	1970/1971	横浜美術館
マウリツィオ・カテルラン	Maurizio CATTELAN	1960	横浜美術館
イアン・チェン	Ian CHENG	1984	横浜美術館
ドン・ユアン(董媛)	DONG Yuan	1984	赤レンガ
サム・デュラント	Sam DURANT	1961	横浜美術館
オラファー・エリアソン	Olafur ELIASSON	1967	横浜美術館
アレックス・ハートリー	Alex HARTLEY	1963	横浜美術館
畠山直哉	HATAKEYAMA Naoya	1958	横浜美術館
カールステン・ヘラー、トビアス・レーベルガー、 アンリ・サラ & リクリット・ティラヴァーニヤ	Carsten HÖLLER, Tobias REHBERGER, Anri SALA & Rirkrit TIRAVANIJA	1961/1966/ 1974/1961	横浜美術館
ジェニー・ホルツァー	Jenny HOLZER	1950	会場間バス／みなとみらい駅
クリスチャン・ヤンコフスキー	Christian JANKOWSKI	1968	赤レンガ
マーク・フスティニアーニ	Mark JUSTINIANI	1966	横浜美術館
川久保ジョイ	KAWAKUBO Yoi	1979	横浜美術館
風間サチコ	KAZAMA Sachiko	1972	横浜美術館
木下晋	KINOSHITA Susumu	1947	横浜美術館
ラグナル・キヤルタンソン	Ragnar KJARTANSSON	1976	赤レンガ
小西紀行	KONISHI Toshiyuki	1980	赤レンガ
マップオフィス	MAP Office	1996結成	横浜美術館
ブラバワティ・メッパイル	Prabhavathi MEPPAYIL	1965	美術館／赤レンガ
ミスター	Mr.	1969	横浜美術館
小沢剛	OZAWA Tsuyoshi	1965	赤レンガ
ケイティ・パターソン	Katie PATERSON	1981	横浜美術館
パオラ・ピヴィ	Paola PIVI	1971	横浜美術館
キャシー・プレnderガスト	Kathy PRENDERGAST	1958	赤レンガ
ロブ・プリュット	Rob PRUITT	1963	横浜美術館
アン・サマツ	Anne SAMAT	1973	横浜美術館
瀬尾夏美	SEO Natsumi	1988	美術館／赤レンガ
ワエル・シャウキー	Wael SHAWKY	1971	横浜美術館
シュシ・スライマン	Shooshie SULAIMAN	1973	横浜美術館
照沼敦朗	TERUNUMA Atsuro	1983	赤レンガ
ザ・プロペラ・グループ、トゥアン・アンドリュウ・グエン	The Propeller Group, Tuan Andrew NGUYEN	2006結成	横浜美術館
タチアナ・トゥルヴェ	Tatiana TROUVÉ	1968	横浜美術館
宇治野宗輝	UJINO	1964	赤レンガ
柳幸典	YANAGI Yukinori	1959	横浜市開港記念会館
ザオザオ(赵赵)	ZHAO Zhao	1982	横浜美術館

【プロジェクト】

ドント・フォロー・ザ・ウィンド	Don't Follow the Wind	2015開始	赤レンガ
-----------------	-----------------------	--------	------

赤レンガ：横浜赤レンガ倉庫1号館

アイ・ウェイウェイ (艾未未)

AI Weiwei

1957年、中華人民共和国（北京）生まれ
ドイツ（ベルリン）在住

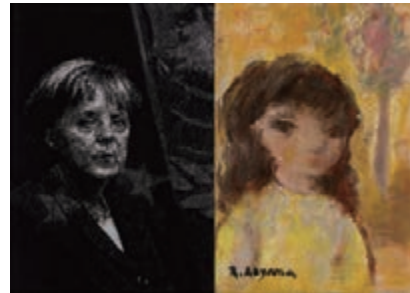


《安全な通行》2016
《Reframe》2016
ヨコハマトリエンナーレ2017展示風景（横浜美術館）
Photo: KATO Ken
© Ai Weiwei Studio

青山悟

AOYAMA Satoru

1973年、日本（東京）生まれ
日本（東京）在住



《政治家と黄色いセーターの少女（メルケル）》2010
photography by Ken KATO © AOYAMA Satoru
Courtesy Mizuma Art Gallery

ジョコ・アヴィアント

Joko AVIANTO

1976年、インドネシア（東ジャワ）生まれ
インドネシア（バンドン）在住



《大きな木々》2015

ブルームバーグ&チャナリン

BROOMBERG & CHANARIN

アダム・ブルームバーグ / 1970年、南アフリカ（ヨハネスブルグ）生まれ
オリバー・チャナリン / 1971年、イギリス（ロンドン）生まれ
イギリス（ロンドン）在住

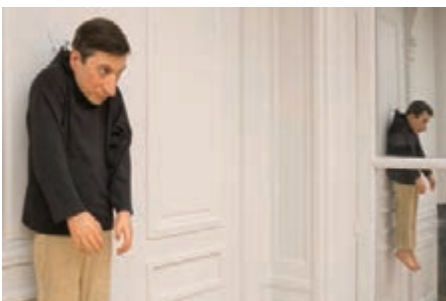


《フロイトの長椅子の残存繊維を石英模型検板を用いて観察した際の干渉縞》
2015
© Broomberg and Chanarin
Photography: Jack Hems. Courtesy Lisson Gallery.

マウリツィオ・カテラン

Maurizio CATTELAN

1960年、イタリア（パドヴァ）生まれ
イタリア（ミラノ）、アメリカ（ニューヨーク）在住



《無題》2000
Photo: Zeno Zotti
Courtesy: Maurizio Cattelan's Archive and Perrotin gallery

イアン・チェン

Ian CHENG

1984年、アメリカ（ロサンゼルス）生まれ
アメリカ（ニューヨーク）在住



《使者は完全なる領域にて分岐する》2015-2016
Courtesy the artist, Pilar Corrias, Standard(Oslo)

ドン・ユアン (董媛)

DONG Yuan

1984年、中華人民共和国 (大連) 生まれ
中華人民共和国 (三河) 在住



「おばあちゃんの家」シリーズより《祭壇》2013
画像提供: 董媛

サム・デュラント

Sam DURANT

1961年、アメリカ (ワシントン州シアトル) 生まれ
アメリカ (カリフォルニア州サンタモニカ) 在住



《ドリーム・マップ、北極星》(部分)
2016
Courtesy of the artist and Blum & Poe,
Los Angeles, Tokyo, New York
Photo by: Josh White

オラファー・エリアソン

Olafur ELIASSON

1967年、デンマーク (コペンハーゲン) 生まれ
デンマーク (コペンハーゲン)、ドイツ (ベルリン) 在住



「Green light-アーティスティック・ワーク
ショップ」2016
Co-produced by Thyssen-Bornemisza Art
Contemporary
Photo: Sandro E.E. Zanzinger / TBA21, 2016
©Olafur Eliasson

アレックス・ハートリー

Alex HARTLEY

1963年、イギリス (ロンドン) 生まれ
イギリス (デボン) 在住



《Nowhereisland (どこにもない島／ここが国土)、メヴァギジー村へ行く》
2012
Photo by Max McClure

畠山直哉

HATAKEYAMA Naoya

1958年、日本 (陸前高田) 生まれ
日本 (東京) 在住



《Terril #02607》2009, Loos-en-Gohelle
©HATAKEYAMA Naoya

カールステン・ヘラー、トビアス・レーベルガー、 アンリ・サラ&リクリット・ティラヴァーニヤ

Carsten HÖLLER, Tobias REHBERGER,
Anri SALA & Rirkrit TIRAVANIJA

カールステン・ヘラー / 1961年、ベルギー (ブリュッセル) 生まれ
トビアス・レーベルガー / 1966年、ドイツ (エスリンゲン・アム・ネッカー) 生まれ
アンリ・サラ / 1974年、アルバニア (ティラナ) 生まれ
リクリット・ティラヴァーニヤ / 1961年、アルゼンチン (ブエノスアイレス) 生まれ



《ジルバ タンゴフライ タグプラント》2016
Produced at STPI - Creative Workshop & Gallery, Singapore ©The Artists/STPI
Photo: Katariina Träskelin

ジェニー・ホルツァー

Jenny HOLZER

1950年、アメリカ（オハイオ州ギャリポリス）生まれ
アメリカ（ニューヨーク）在住



《自明の理》より 1977-79

Hamburg, Germany, 1987

©1987 Jenny Holzer, member Artists Rights Society (ARS), NY

クリスチャン・ヤンコフスキー

Christian JANKOWSKI

1968年、ドイツ（ゲッティンゲン）生まれ
ドイツ（ベルリン）在住



《重量級の歴史》2013

Photographer: Szymon Rogynski

Courtesy: the artist, Lisson Gallery

マーク・フスティニアニ

Mark JUSTINIANI

1966年、フィリピン（バコロド）生まれ
フィリピン（マニラ）在住



《トンネル》2016

© Mark Justiniani

川久保ジョイ

KAWAKUBO Yoi

1979年、スペイン（トレド）生まれ
イギリス（ロンドン）在住



《千の太陽の光が一時に天空に輝きを放ったならば》2016

©Yoi Kawakubo, 2016

風間サチコ

KAZAMA Sachiko

1972年、日本（東京）生まれ
日本（東京）在住



《人間地獄》2017

撮影：坂田峰夫

木下晋

KINOSHITA Susumu

1947年、日本（富山）生まれ
日本（東京）在住

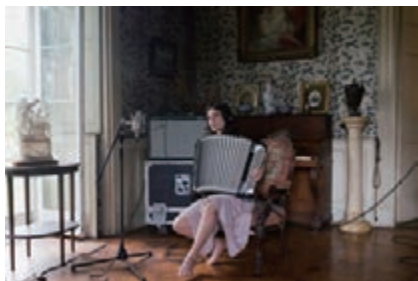


《掌握》2011

ラグナル・キャルトンソン

Ragnar KJARTANSSON

1976年、アイスランド（レイキャヴィーク）生まれ
アイスランド（レイキャヴィーク）在住



《ザ・ピジターズ》2012

Courtesy of the artist, Luhring Augustine, New York and i8 Gallery, Reykjavik
Photo: Elisabet Davids

小西紀行

KONISHI Toshiyuki

1980年、日本（広島）生まれ
日本（広島）在住



《無題》2017

©Toshiyuki Konishi, Courtesy of the artist and URANO

マップオフィス

MAP Office

1996年結成、香港（柴湾）を拠点に活動
ローラン・グティエレス/1966年、モロッコ（カサブランカ）生まれ
ヴァレリー・ポルトフェ/1969年、フランス（サン＝ティエンヌ）生まれ



《色覚障がいのための島》2014

プラバワティ・メッパイル

Prabhavathi MEPPAYIL

1965年、インド（ベンガルール）生まれ
インド（ベンガルール）在住



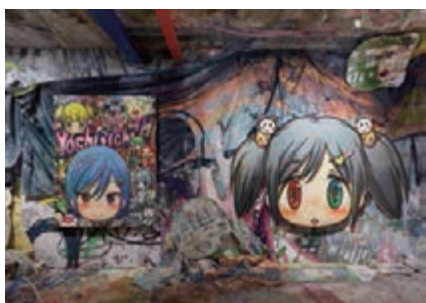
《rw/セブンティーン》2013

©Prabhavathi Meppayil 2013,
Courtesy GALLERYSKE,
Photographer: Manoj Sudhakaran.

ミスター

Mr.

1969年、キューバ生まれ



《まるで胸に穴が開いたような、僕の知っている街、東京の夕暮》2016

©2016 Mr./Kaikai Kiki Co., Ltd. All Rights Reserved.
Courtesy Perrotin

小沢剛

OZAWA Tsuyoshi

1965年、日本（東京）生まれ
日本（さいたま）在住



小沢剛新作制作風景

撮影：ポビー・ブラフマ／大岡寛典

ケイティ・パターソン

Katie PATERSON

1981年、イギリス（グラスゴー）生まれ、ドイツ（ベルリン）在住



《化石のネックレス》（部分）2013
© Katie Paterson.
Courtesy James Cohan, New York.

パオラ・ピヴィ

Paola PIVI

1971年、イタリア（ミラノ）生まれ
アメリカ（アラスカ州アンカレジ）在住



《I and I（芸術のために立ち上がらねば）》2014
Photo: Guillaume Zicarelli
Courtesy of the Artist & Perrotin

キャシー・プレnderガスト

Kathy PRENDERGAST

1958年、アイルランド（ダブリン）生まれ
イギリス（ロンドン）在住



《アトラス25 リスボン・パダホス》2016

ロブ・プルート

Rob PRUITT

1963年、アメリカ（ワシントンD.C.）生まれ
アメリカ（ニューヨーク）在住



《オバマ・ペインティング》2009 - 2017
Courtesy of the artist and Gavin Brown's enterprise, New York/Rome.

アン・サマツ

Anne SAMAT

1973年、マレーシア（マラッカ）生まれ
マレーシア（クアラルンプール）在住



《部族の酋長シリーズ5》2016
Courtesy: Richard Koh Fine Art and the Artist

瀬尾夏美

SEO Natsumi

1988年、日本（東京）生まれ
日本（仙台）在住



《二重のまち》より 2015

ワエル・シャウキー

Wael SHAWKY

1971年、エジプト（アレキサンドリア）生まれ
エジプト（アレキサンドリア）在住



《十字軍芝居：聖地カルバラーの秘密》より
2015
© Wael Shawky;
Courtesy Lisson Gallery

シュシ・スライマン

Shooshie SULAIMAN

1973年、マレーシア（ムアル）生まれ
マレーシア（クアラルンプール）在住



《マレーの薔薇》展示風景 2016 カディスト美術財団（パリ）
Courtesy of the Artist
Photo: Aurélien Mole.

照沼敦朗

TERUNUMA Atsuro

1983年、日本（松戸）生まれ
日本（さいたま）在住

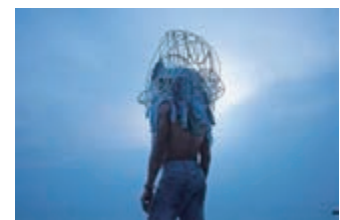


《ミエテルノゾム君の夢製造伝奇》2016
撮影：上野則宏

ザ・プロペラ・グループ、 トゥアン・アンドリュウ・グエン

The Propeller Group, Tuan Andrew NGUYEN

2006年結成、ベトナム（ホーチミン）およびアメリカ（ロサンゼルス）を拠点に活動
ブナム/1974年、ベトナム（サイゴン）生まれ
マット・ルサーロ/1976年、アメリカ（カリフォルニア州アップランド）生まれ
トゥアン・アンドリュウ・グエン/1976年、ベトナム（サイゴン）生まれ



トゥアン・アンドリュウ・グエン
《アイランド》2017

《映画『J・エドガー』のJ・エドガー・フーバーに扮するレーニン》2013
© The Propeller Group.
Courtesy of James Cohan, New York

タチアナ・トゥルヴェ

Tatiana TROUVÉ

1968年、イタリア（カラブリア州コゼンツァ）
フランス（パリ）在住



《Dream Time Chart》2017
Photo: Ringo Cheung
© Tatiana Trouvé / ADAGP, Paris & SACK, Seoul, 2017 Courtesy Perrotin

宇治野宗輝

UJINO

1964年、日本（東京）生まれ
日本（東京）在住

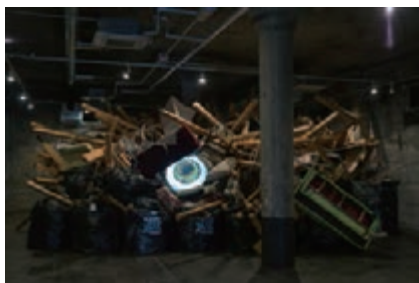


《プライウッド・シティ》2008-2010
Courtesy: PSM Berlin

柳幸典

YANAGI Yukinori

1959年、日本（福岡県）生まれ
日本（尾道）在住



《Project God-zilla —Landscape with an Eye— 》2016
Photo by Tatsuhiko NAKAGAWA

ザオ・ザオ（赵赵）

ZHAO Zhao

1982年、中華人民共和国（新疆ウイグル自治区）生まれ
中華人民共和国（北京）在住



《プロジェクト・タクラマカン》2016 イメージ

プロジェクト

Don't Follow the Wind

2015年3月11日より福島県帰還困難区域内某所にて展示を開始



Don't Follow the Wind
Curatorial collective on a site visit
in the Fukushima exclusion zone
Courtesy of Don't Follow the Wind

計38組 1プロジェクト

※写真は参考画像を含みます。

※参加アーティストは、個人・グループを含みます。

※参加アーティスト名は、原則、氏またはグループ名のアルファベット順です。

※アーティストの基本情報は、原則、出生国・地域（市）、在住国・地域（市）です。

公開対話シリーズ「ヨコハマラウンド」

ヨコハマラウンドは、様々な分野の専門家を招き、円卓（roundtable）を囲むように何回かにわたって（rounds）対話・議論を重ねます。開幕に先立ち2017年1月より開始し、閉幕に合わせて開催するラウンド8で締めくくります。

プログラム（2017年8月3日現在）※日程、プログラム内容、登壇者は変更する場合があります。

	日程	テーマ	登壇者	[総合進行：三木あき子]
開幕前	ラウンド 1 1月15日（日）	0と1の間にあるアート 0と1のデジタルの世界が進む現代社会におけるアートの意味とは？	養老孟司 （解剖学者、東京大学名誉教授） 布施英利 （美術批評家・解剖学者）	
	ラウンド 2 3月25日（土）	創造と汚染 異なる文化や言語、価値の交差、混淆と混濁。そこに生じる問題と新たな創造の豊かさについて、世界が保守化する今、改めて考える。	リクリット・ティラヴァーニヤ （アーティスト、コロンビア大学芸術学部教授） 今福龍太 （文化人類学者・批評家、東京外国語大学大学院教授） スプツニ子！ （アーティスト、マサチューセッツ工科大学メディアラボ助教）	
	ラウンド 3 5月28日（日）	島とオルタナティブ：歴史・社会、医療、アート 島をキーワードに、幅広い視点から従来の価値や世界観とは異なるオルタナティブな方向性、可能性を探る。	マップオフィス （アーティスト） 稲葉俊郎 （医師、東京大学医学部附属病院循環器内科助教） 吉見俊哉 （社会学・カルチュラルスタディーズ研究者、東京大学大学院教授）	
会期中	ラウンド 4 8月4日（金） ー5日（土）	繋がる世界と孤立する世界 21世紀現代の世界の接続性と孤立性を、詩的かつ批評的に読み取るアーティストたちの視線と活動とは？	参加アーティストから20名程度を予定	
	ラウンド 5 8月26日（土）	ガラパゴス考察 政治的、経済的、文化／社会的にもグローバル化とガラパゴス化の狭間で揺れるいまの世界について、進化生物学や情報学など複眼的・独創的な視点で考える。	川久保ジョイ （アーティスト） ドミニク・チェン （情報学研究者、早稲田大学文学学術院准教授） 長谷川真理子 （行動生態学・自然人類学者、総合研究大学院大学学長）	
	ラウンド 6 9月18日（月・祝）	新しい公共とアート 孤立と接続というテーマを踏まえて、公共空間はどのように変わっていくのか、また都市、建築、アートの関係とは？ 〈横浜国立大学大学院Y-GSAとの共催〉	北山恒（建築家、横浜国立大学名誉教授） 内藤廣（建築家、東京大学名誉教授） 西沢立衛（建築家、横浜国立大学大学院教授） 小林重敬（都市計画学者、横浜国立大学名誉教授）	
閉幕時	ラウンド 7 10月21日（土）	我々はどこから来てどこへ行くのか？ 壮大な時間・空間の繋がりの中で、我々の今・ここにある生をどのように捉えるか、これからの生き方、未来の模案における創造・表現の意味とは？	畠山直哉（写真家） 平野啓一郎（小説家） 小林憲正（宇宙生物学者、横浜国立大学大学院教授）	
	ラウンド 8 11月3日（金・祝）	より美しい星座を描くために：アートの可能性とは？ 先行きの不透明な今、アートは見えないものの間を繋げ、未来のビジョンやデザインへの発想の転換や思考の飛躍を可能にするのか？	構想会議メンバー＋ディレクターズ	

＊ガイドブックも合わせてご覧ください

ヨコハマサイト

ヨコハマトリエンナーレ2017のテーマや主要なキーワードである「接続性」や「孤立」、「共生」、「多様性」。これらと結びつくような事業や展示を実施してきた施設、あるいは歴史的背景をもつ場所や建造物を「ヨコハマサイト」と呼び紹介します。

また、アーティストの田村友一郎はいくつかの場所を星座のように結びつけ、独自の視点で創りあげた物語「^{ガンマ}座」を構成。田村が紡ぎ出した物語は、山下公園に係留する日本郵船氷川丸の「旧三等食堂」で鑑賞できます。

ヨコハマサイト：日本郵船氷川丸、海上保安資料館横浜館、旧横浜港駅プラットフォーム跡、横浜税関資料展示室、日本郵船歴史博物館、岩亀稲荷、掃部山公園、横浜外国人墓地

ヨコハマスクリーニング ヨコハマトリエンナーレ2017映像プログラム

本展のテーマに即した映像作品、本展出品作家に関連するドキュメンタリーなど、約20タイトルを4日間で上映します。
日時：9月16日（土）・17日（日）、10月7日（土）・8日（日）

ヨコハマプログラム

鶴見大学×横浜美術館美術情報センター「ひろがる源氏 つながる古地図」

鶴見大学図書館の貴重書から「孤立」と「接続性」を読みとってゆきます。

鶴見大学との連携で、同大学図書館所蔵の古典籍や古地図を展示します。前期には、写本によって限られた立場の人々に読み継がれた『源氏物語』が、版本というメディアを通じさまざまな大衆文化に広がっていく様子を、鎌倉時代以降の古典籍で紹介します。後期には、西洋と東洋および日本の世界観が接続してゆく在り様を、16世紀以降の古地図で紹介します。前期は、伝冷泉為相筆『源氏物語』「須磨」（古写本、鎌倉時代後期）、後期はイエズス会士の地図製作者ティセラによる「日本図」などを展示予定。

会場：横浜美術館美術情報センター

主催：鶴見大学、横浜美術館美術情報センター

水族館劇場「もうひとつの この世のような夢 ―寿町最終未完成版―」

大がかりな仕掛け舞台と大量の水によるダイナミックな演出で知られる水族館劇場。街なかに巨大テント劇場を立ち上げ横浜を舞台とした作品を上演します。

日時：2017年9月1日（金）－5日（火）、13日（水）－17日（日） 各日18:30-20:30

会場：寿町総合労働福祉会館再整備事業用地（横浜市中区寿町4-14-1）

料金：有料 ＊ヨコハマトリエンナーレチケットとは別に公演チケットをお買い求めください。

主催：横浜トリエンナーレ組織委員会、（公財）横浜市芸術文化振興財団、水族館劇場

その他イベント情報

<横浜美術館>

優美なコラボレーション〈鑑賞と体験〉 • 日時：8月27日（日）13:30-16:30

夜の美術館でアートクルーズ • 日時：9月9日（土）17:45-20:30

畠山直哉・写真ワークショップ • 日時：9月18日（月・祝）10:30-17:00

木下晋・鉛筆画ワークショップ • 日時：10月8日（日）10:30-15:30（昼休含む）

<KAAT神奈川芸術劇場>

川久保ジョイ 自然の美しい光景や文字を駆使した映像作品が巨大なスクリーンで体験できます。

＊詳しくは、ガイドブック30～33ページ、36～38ページをご覧ください。

ヨコハマトリエンナーレ2017と一緒に楽しめるアートプログラム

「セット券」で鑑賞できるプログラム

ヨコハマトリエンナーレ2017「島と星座とガラパゴス」と合わせて「BankART Life V」と「黄金町バザール2017」が楽しめます。BankART Studio NYK、初黄・日ノ出町地区（黄金町エリア）とヨコハマトリエンナーレ会場を回る「会場間無料バス」も運行します。

Bank ART Life V ー観光



「近くにあるのに気づかない、遠くに思える存在、あるいは遠ざけていて近づけない」そんな場所と人に積極的に関わっていきます。

BankART Studio NYKの大規模な空間を活用した大型の作品群と黄金町地区へ向かう道程の都市的な道草が今回の展覧会のテーマです。そして観光という言葉の「光を観る」の本意に迫ります。

会期：8月4日（金）－11月5日（日）＊第2・4木曜日休場

開場時間：10:00-19:00（10/27-29、11/2-4 は21:30まで）

会場：BankART Studio NYK（中区海岸通3-9）ほか

料金：セット券でパスポートと引換。

（BankART Life V単体パスポートは1,000円。中学生以下無料）

主催：BankART1929

お問合せ：045-663-2812 <http://www.bankart1929.com/kanko/>

＊BankART Life Vと併せて「日産アートアワード2017」展をBankART Studio NYKで開催します。

会期：9月16日（土）－11月5日（日）＊休場はBankART Studio NYKと同じ

料金：無料

<http://www.nissan-global.com/JP/CITIZENSHIP/NAA/>

黄金町バザール2017 ーDouble Façade 他者と出会うための複数の方法



キャンディー・バード《Office Worker》2016



photo:Yasuyuki Kasagi

黄金町バザールはアートとコミュニティの関係、アジアとの交流をテーマに2008年より毎年開催しているアートフェスティバルです。

10回目の節目となる今回はゲストキュレーターに窪田研二氏を迎え、双方向から働きかけ合う関係、そして互いの異質性を理解しながら、互いに敬意をもって共存する世界について問いかけることをテーマに開催します。作品展示のほか、制作プロセスの公開や参加型プログラムなど多彩な内容で展開します。

会期：[vol.1] 8月4日（金）－9月13日（水）

[vol.2] 9月15日（金）－11月5日（日）

＊第2・4木曜日休場 ＊vol.1とvol.2で一部展示替えあり

開場時間：11:00-18:30（10/27-29、11/2-4 は20:30まで）

会場：初黄・日ノ出町地区（黄金町エリア）、

京急線「日ノ出町駅」から「黄金町駅」間の高架下スタジオほか

料金：セット券でパスポートと引換。

（黄金町バザール2017のみの入場は700円／パスポート制、中学生以下無料）

主催：認定NPO法人黄金町エリアマネジメントセンター、初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会

お問合せ：045-261-5467 <http://www.koganecho.net/koganecho-bazaar-2017/>

期間中に横浜で開催される主なアートプログラム

市内にある6つの創造界隈拠点（※1）やその他の施設でも多数のアートプログラム等が開催され、横浜のまち全体でトリエンナーレを盛り上げます。

ヨコハマ・パラトリエンナーレ2017



Photo: Kyosuke Asano

障がいのあるなしにかかわらず、多様な市民やアーティストらが対等な立場で芸術活動に取り組むことで、あらゆる立場の人が関わりを持つ寛容性のある共生社会の実現を目指すアートプロジェクトです。

会期/会場：第1部（創作）5月27日（土）－9月30日（土）/横浜市内・国内各所
第2部（発表）10月7日（土）－10月9日（月）/象の鼻パーク・象の鼻テラス
第3部（展示）11月8日（水）－12月下旬/横浜ラポール（港北区）、横浜市内各所

主催：横浜ランデヴープロジェクト実行委員会、特定非営利活動法人スローレーベル

<http://www.paratriennale.net/>

YCC Temporary 鬼頭健吾



untitled(hula-hoop) (2005-2015)
Photo: 木暮真也

YCC ヨコハマ創造都市センター主催のアートプログラム・シリーズの第3弾です。

会期：8月4日（金）－9月17日（日）

会場：YCC ヨコハマ創造都市センター

主催：YCC ヨコハマ創造都市センター（特定非営利活動法人YCC）

<http://yokohamacc.org/>

スマートイルミネーション横浜2017



Smart Illumination Yokohama 2015
photo: Hideo Mori

最先端の省エネ技術とアートを融合し、新たな横浜夜景を提案する光の国際イベントです。アーティストによる作品と、アワード作品から構成するコアフェスティバルに加え、今年度からは市内のイルミネーションと連携して横浜の夜を彩るヨコハマ・イルミネーション・マンスに取り組みます。

会期：コアフェスティバル 11月1日（水）－11月5日（日）

ヨコハマ・イルミネーション・マンス 11月1日（水）－12月31日（日）

会場：象の鼻パーク・象の鼻テラスほか市内各所

主催：スマートイルミネーション横浜実行委員会

<http://www.smart-illumination.jp/>

Creative Waterway 一川と海でつなぐ創造の拠点



横浜都心臨海部の海や大岡川周辺の水辺を舞台に、様々なアート作品を展示し、クリエイティブな活動を行う6つの「創造界隈拠点（※1）」を川と海でつなぐ、屋外展示型のアートプログラム。

期間中は、船上での音声による演劇体験や展示作品が鑑賞できるアートクルーズも運行します。クリエイティビティ溢れるアート作品によって変わる横浜の水辺を、是非お楽しみください。

会期：8月4日（金）－11月5日（日）＊作品によって展示期間は異なります。

会場：横浜都心臨海部（大岡川～象の鼻パーク周辺）

主催：横浜市

<http://creative-waterway.net/>

お問い合わせ：認定NPO法人黄金町エリアマネジメントセンター TEL 045-261-5467

※1「創造界隈拠点」とは

横浜の最大の強みである「港を囲む独自の歴史や文化」を活用し、芸術や文化の持つ「創造性」を生かして、都市の新しい価値や魅力を生み出す都市づくりとする「創造都市横浜」の施策の一環として、都心臨海部の歴史的建造物や倉庫、空き店舗、公共空間等を有効活用し、創造的な活動を発信する施設です。

横浜市内には現在、BankART Studio NYK、初黄・日ノ出町地区、象の鼻テラス、YCC ヨコハマ創造都市センターの他、舞台芸術創造活動拠点である「急な坂スタジオ」、「スポーツ×クリエイティブ」をテーマとして2017年3月に新たにオープンした「THE BAYS」を含めた6つの創造界隈拠点があります。

ヨコハマトリエンナーレ2017応援プログラム

ヨコハマトリエンナーレ2017の会期中に、市民、企業、アーティスト・クリエイターの皆さまが主催する、文化・芸術分野の活動やタイトルの「島」「星座」「ガラパゴス」に関連したイベントなどが「応援プログラム」として開催します。

ヨコハマトリエンナーレ2017と一緒に盛り上げ、賑わいを創出しながら、まちの魅力を発信していきます。

今回は、100を超える事業の皆さまがご参加くださいました。市内各所で様々な主催団体による多彩なイベント・プログラムが展開されますので、ヨコハマトリエンナーレ2017と合わせお楽しみください。



応援プログラム

《応援プログラムの詳細》

「ヨコハマ・ガイド」公式WEBサイト

<http://yokohamatriennale.jp/2017/guide/index.html>

ヨコハマトリエンナーレ2017を盛り上げる市民活動

「ハマトリーツ！」（横浜トリエンナーレサポーター）

「ハマトリーツ！」は横浜トリエンナーレを盛り上げる市民サポーターです。横浜トリエンナーレに携わるボランティア活動として誕生し、これまで展覧会の運営サポートや市民ならではの目線で広報活動を行い、また主体的な活動を通じて、多くの仲間を増やしています。メンバーは「アートが大好き」、「まちづくりに興味がある」などさまざまな趣向を持つ方々が集まり、10代から70代までと幅広い年齢層のメンバーと一緒に活動しています。

*ハマトリーツ! (Hama-Treats!) の由来

「トリーツ／treats」とは「思わぬ喜び、とてもいいもの」という意味で、「ハマトリーツ!」という愛称には「横浜トリエンナーレを通して愛する横浜の“Treat”を広く世界に発信していく人たち」という思いが込められています。サポーターからの公募により決定しました。



ヨコハマトリエンナーレ2017での主な活動

- ビジターサービスセンターでの来場者のおもてなし
- 作品ガイド活動
- アーティストの作品制作や運営サポート
- サポーター企画によるイベント実施や情報発信(フリーペーパー発行など) ほか

《サポーター登録の申込み・お問い合わせ》

横浜トリエンナーレサポーター事務局

〒220-0012 横浜市内西区みなとみらい3丁目4-1 横浜美術館 横浜トリエンナーレ組織委員会事務局内

TEL：045-228-7816(10:00-18:00／土日祝休み) FAX：045-681-7606 MAIL：info@yokotorisup.com

横浜トリエンナーレサポーター公式WEBサイト：www.yokotorisup.com

チケット情報

ヨコハマトリエンナーレ2017鑑賞券

横浜美術館、横浜赤レンガ倉庫 1 号館、横浜市開港記念会館地下に会期中 1 回ずつ入場できます（別日程も可）。入場当日は、同一会場に限り再入場いただけます。

セット券

「ヨコハマトリエンナーレ 2017 鑑賞券」「BankART Life V パスポート」「黄金町バザール 2017 パスポート」がセットになったお得なチケットです。「BankART Life V」および「黄金町バザール 2017」には、会期中何度でも入場できます。

ヨコハマトリエンナーレ2017	一般	大学・専門学校生	高校生（中学生以下無料）
鑑賞券	1,800円	1,200円	800円
セット券	2,400円	1,800円	1,400円

[無料で入場いただける方]

- ・中学生以下の方
- ・障がいのある方 * とその介護者（1 人）

*対象：身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、愛の手帳（療育手帳）、特定疾患医療受給者証、自立支援医療受給者証およびこれらに類する証書の交付を受けている方

[団体割引 20枚以上一括購入割引料金]

券種・区分を問わず20枚以上のチケットを一括購入する方には割引料金の設定があります。

（1枚あたり200円割引） 販売窓口：横浜美術館会場および横浜赤レンガ倉庫 1 号館会場（会期中の開場日のみ）

チケット取扱場所

横浜美術館、横浜赤レンガ倉庫1号館、BankART Studio NYK、黄金町アートブックバザール、プレイガイド、鉄道駅売店 ほか

公式オンラインチケット発売

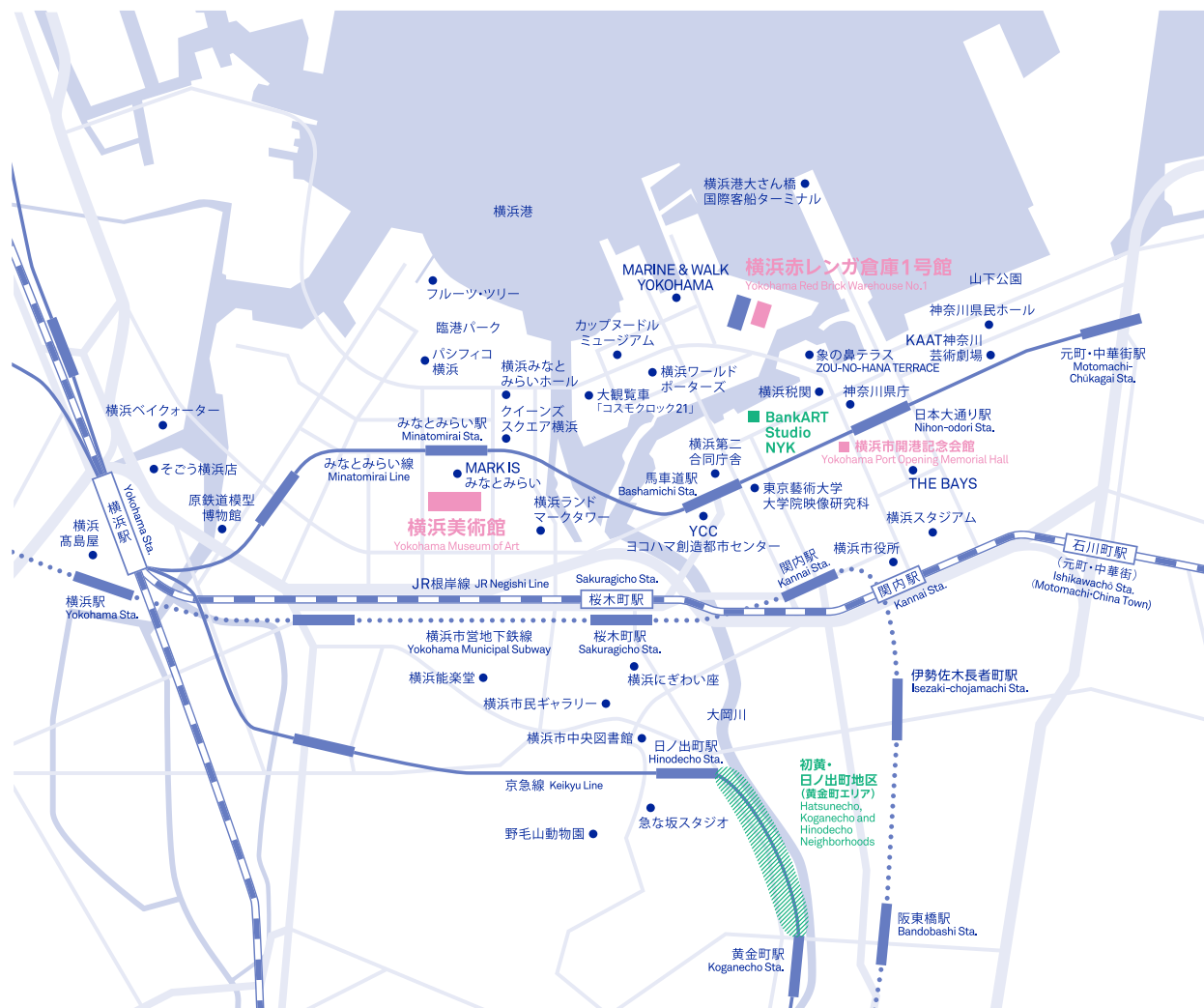
PC・スマートフォンから直接チケットを購入いただけます。

※チケット取扱場所の詳細および公式オンラインチケットは、ヨコハマトリエンナーレ2017公式WEBサイト（www.yokohamatriennale.jp）をご確認ください。

《チケットに関するお問合せ》

ヨコハマトリエンナーレ 2017 チケット販売センター TEL：045-478-6090（10:00-12:00、13:00-17:00）

交通アクセス・案内図



横浜美術館／横浜市西区みなとみらい3-4-1

みなとみらい線「みなとみらい駅」3番出口から徒歩3分
 JR線および横浜市営地下鉄線「桜木町駅」から
 <動く歩道>利用 徒歩10分

横浜赤レンガ倉庫1号館／横浜市中区新港1-1-1

みなとみらい線「馬車道駅」または「日本大通り駅」徒歩6分
 JR線および横浜市営地下鉄線「関内駅」
 または「桜木町駅」徒歩15分

横浜市開港記念会館／横浜市中区本町1-6

みなとみらい線「日本大通り駅」徒歩1分
 JR線および横浜市営地下鉄線「関内駅」徒歩10分

会場間無料バスの運行

会期中、ヨコハマトリエンナーレ2017チケットをお持ちの方がご利用いただける、
 横浜美術館／横浜赤レンガ倉庫／BankART Studio NYK付近／初黄・日ノ出町地区（黄金町エリア）を
 結ぶ会場間無料バスを運行します。

支援／特別協力／後援／特別協賛／協賛／助成／協力／認証

[支援]  文化庁（国際芸術フェスティバル支援事業）

[特別協力] 独立行政法人国際交流基金 公益財団法人神奈川県芸術文化財団

[後援] 外務省 神奈川県 神奈川新聞社 tvk（テレビ神奈川）タイ王国大使館 マレーシア大使館

[特別協賛]  TERRADA

[協賛]   都市に豊かさと潤いを **三井不動産グループ**  人を、想う力。街を、想う力。 **三菱地所グループ**

 **株式会社 イトチーエヌ**

 **STARTS** スターツ

 **NICE** ナイス
すべてナイスグループ

 **DNP** 大日本印刷

 **Takashimaya** YOKOHAMA

 **FUJITSU** 富士通エフサス

 **銘建工業株式会社**

 **森ビル**
MORI BUILDING

 **横浜銀行**

 **UYENO**
上野トラスト株式会社

 **NTT** 東日本

 **大林組**
OBAYASHI

公益財団法人 大林財団

 **川本工業**

 **Kitamura**
MOTOMACHI

崎陽軒

 **サカタのタネ**

 **Orchestrating a brighter world** **NEC**

 **原鉄道模型博物館**

 **FUJI XEROX**

 **横浜信用金庫**

[助成]  **SOMPO** ユー・エス・エス
担保ジャパン日本興亜
「SOMPO アート・ファンド」
(企業メセナ協議会 2021 Arts Fund)  **INSTITUT FRANÇAIS** 公益信託タカシマヤ文化基金

 **BRITISH COUNCIL**

 **Culture Ireland**
Cultúr Fireann

 **GOETHE INSTITUT**

 **2021 Arts Fund** 芸術・文化による社会創造ファンド
企業メセナ協議会

[協力] **アサヒビール株式会社** **コクヨカムリン社**

[認証]  **beyond 2020**

横浜トリエンナーレについて

- 使命 横浜トリエンナーレは、我が国を代表する現代アートの国際展として、創造都市横浜の発展をリードするとともに、多様性を受け入れる心豊かな社会の形成に寄与します。
- 目標 アートでひらく ひらかれた現代アートの祭典として誰もが多様な表現に触れる機会を分野と時代を横断して提供し、世代等を超えた理解を促進します。
世界とつながる ナショナルプロジェクトとして、横浜から新しい価値観と新たな文化を継続的に世界に届け、国際交流と相互理解に貢献します。
まちにひろがる 創造都市として築いている、横浜ならではのまちの力と一体的に推進します。
- 行動方針 世界水準 次世代の育成 市民参加 祝祭性 賑わいづくりと経済活性化

これまでの開催実績

開催年	2001年(第1回)	2005年(第2回)	2008年(第3回)	2011年(第4回)	2014年(第5回)
テーマ／ 展覧会タイトル	横浜トリエンナーレ2001 メガ・ウェイブ ー新たな総合に向けて	横浜トリエンナーレ2005 アートサーカス [日常からの跳躍]	横浜トリエンナーレ2008 TIME CREVASSE タイムクレヴァス	ヨコハマトリエンナーレ2011 OUR MAGIC HOUR ー世界はどこまで知ることができるか？ー	ヨコハマトリエンナーレ2014 華氏451の芸術： 世界の中心には 忘却の海がある
ディレクター／ キュレーター	[アーティスティック・ ディレクター] 河本信治 建畠 哲 中村信夫 南條史生	[総合ディレクター] 川俣 正 [キュレーター] 天野太郎 芹沢高志 山野真悟	[総合ディレクター] 水沢 勉 [キュレーター] ダニエル・バーンバウム フー・ファン 三宅暁子 ハンス・ウルリッヒ・オプリスト ベアトリクス・ルフ	[総合ディレクター] 逢坂恵理子 [アーティスティック・ ディレクター] 三木あき子	[アーティスティック・ ディレクター] 森村泰昌
会期 (開場日数)	9月2日ー11月11日 (67日間)	9月28日ー12月18日 (82日間)	9月13日ー11月30日 (79日間)	8月6日ー11月6日 (83日間)	8月1日ー11月3日 (89日間)
主会場	[2会場] ・パシフィコ横浜展示ホール (C、D) ・横浜赤レンガ倉庫1号館	[1会場] ・山下ふ頭3・4号上屋	[4会場] ・新港ピア (新港ふ頭展示施設) ・日本郵船海岸通倉庫 (BankART Studio NYK) ・横浜赤レンガ倉庫1号館 ・三溪園	[2会場] ・横浜美術館 ・日本郵船海岸通倉庫 (BankART Studio NYK)	[2会場] ・横浜美術館 ・新港ピア (新港ふ頭展示施設)
参加作家数	109作家	86作家	72作家	77組(79作家)／1コレクション	65組(79作家)
総事業費	約7億円	約9億円	約9億円	約9億円	約9億円
総入場者数 (有料入場者)※	約35万人(約35万人)	約19万人(約16万人)	約55万人(約31万人)	約33万人(約30万人)	約21万人(約21万人)
チケット 販売枚数	約17万枚	約12万枚	約9万枚	約17万枚	約10万枚
ボランティア／ サポーター登録者数	719人	1,222人	1,510人	940人	1,631人
主催者	国際交流基金 横浜市 NHK 朝日新聞社 横浜トリエンナーレ組織委員会	国際交流基金 横浜市 NHK 朝日新聞社 横浜トリエンナーレ組織委員会	国際交流基金 横浜市 NHK 朝日新聞社 横浜トリエンナーレ組織委員会	横浜市 NHK 朝日新聞社 横浜トリエンナーレ組織委員会 共催: (公財)横浜市芸術文化振興財団	横浜市 (公財)横浜市芸術文化振興財団 NHK 朝日新聞社 横浜トリエンナーレ組織委員会

※入場者数は延べ人数
※事業の総称および組織名は「横浜トリエンナーレ」(横浜＝漢字表記)

横浜トリエンナーレ組織委員会

(2017年7月1日現在) ※会長、委員は50音順

名誉会長： 上田良一 NHK会長
林 文子 横浜市長(代表)
渡辺雅隆 朝日新聞社社長

委員： 市村友一 朝日新聞社企画事業担当兼企画事業本部長
逢坂恵理子 横浜美術館館長
福山浩一郎 NHK事業センター専任部長
澤 和樹 東京藝術大学学長
澄川喜一 (公財) 横浜市芸術文化振興財団理事長(委員長)
高階秀爾 大原美術館館長
建畠 哲 多摩美術大学学長
柄 博子 国際交流基金理事
中山こずゑ 横浜市文化観光局長

《本記者資料に関するお問い合わせ》

ヨコハマトリエンナーレ2017広報事務局（株式会社プラップジャパン）

担当: 桑間、横澤

〒107-6033 東京都港区赤坂1-12-32 アーク森ビル33F

TEL: 050-5243-8863 (03-4580-9110)

E-MAIL: pr_yokotori2017@ml.prap.co.jp

《横浜トリエンナーレ組織委員会に関するお問い合わせ》

横浜トリエンナーレ組織委員会事務局

広報担当: 西山、高橋

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい3-4-1 横浜美術館内

TEL: 045-663-7232 (平日10:00～18:00) FAX: 045-681-7606

E-MAIL: press@yokohamatriennale.jp

